

# 大会概要

## 基本方針

我が国は、世界に類のない速さで高齢化が進んでいます。和歌山県では、2020年に県民のほぼ3人に1人が高齢者となる時代を迎えると見込まれており、私たちの社会における高齢者の役割は格段に大きくなっています。

このような社会において、高齢者がいきいきと暮らす姿は、次世代の見本となり、また超高齢社会における明るい希望となります。

第32回全国健康福祉祭和歌山大会は、スポーツや文化活動に高齢者自らが躍動し歓喜することを通じて、健康長寿を実感し、スポーツや文化の楽しさを精いっぱい味わえる大会となること、そして、世代を超えた交流の絆を深め、和歌山に来て良かったと思ってもらえる大会となることを目指し、次の4つの目標を掲げます。

## 【大会の目標】

### 1 「健康長寿」の喜びを共に分かち合う大会

高齢者が健康で生きがいを持ち、豊かな人生を送れる社会が、本当の意味で長寿を喜べる社会と言えます。大会やイベントへの参加を通じて、高齢者の皆さんが持つ力を存分に発揮し、長寿の素晴らしさと喜びを分かち合える大会とします。

### 2 スポーツや文化活動の「楽しさ」を味わう大会

スポーツや文化活動など、ひたむきに打ち込めるものを見つけることは、その人の人生をより豊かで充実したものにします。一人ひとりが、何歳になっても味わえるスポーツや文化活動の「楽しさ」を実感し、健康で自立した生活を送れる社会づくりを誓う大会とします。

### 3 地域や世代を超えた「絆」をむすぶ大会

全国から参加する元気な高齢者の皆さんと和歌山県民との、地域や世代を超えた交流の場を通じて、お互いの絆を深めてふれあいの輪を広げ、支え合える気持ちを次世代につなげる大会とします。

### 4 「和歌山に来て良かった」と思ってもらえる大会

和歌山県は、世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」に代表される歴史ロマンや、温暖な気候と豊かな自然に恵まれており、そこに住まう県民は、心温かさで奉仕・慈善を重視する県民性を持っています。「紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会」で培った県民力を発揮し、まごころのこもったおもてなしで、全国から参加される皆さんが「和歌山に来て良かった」と思ってもらえる大会とします。

## 大会の概要

- 1 名称 第32回全国健康福祉祭和歌山大会
- 2 愛称 **ねんりんピック紀の国わかやま2019**
- 3 主催 厚生労働省・和歌山県・一般財団法人長寿社会開発センター
- 4 共催 スポーツ庁
- 5 テーマ **あふれる情熱 はじける笑顔**
- 6 会期 令和元年11月9日(土)～12日(火) 4日間
- 7 参加予定人員 延べ約40万人(観客含む)
- 8 シンボルマーク



老いも若きも仲よく、ともに生きていく社会をふたりの人物で表しています。

また、2つの丸は、その組み合わせにより、お互いに助け合い、健康と福祉の輪が未来に向かって広がっていくことを意味しています。

### 9 大会マスコットキャラクター



大会マスコットキャラクター  
きいちゃん

紀州犬をモチーフにした元気いっぱいのマスコットです。体の緑色のマークは、和歌山の頭文字Wと豊かな緑を表現しています。

生まれ育った和歌山の自然とスポーツが大好き。いろんな事にチャレンジして、たくさんの人と友だちになりたいと思っています。

「ねんりんピック紀の国わかやま2019」も、元気に応援します!

# 大会実施状況

## 1 大会実行委員会

平成29年6月に県内関係機関及び関係団体等の代表者170人で構成する「ねんりんピック紀の国わかやま2019実行委員会」を設立し、第1回総会を開催しました。

実行委員会には、常任委員会と「総務・企画」、「式典・事業」、「宿泊・輸送等」の3つの専門委員会及び「献立」部会を設置し、具体的な検討を重ねてきました。

また、交流大会会場地市町でも、実行委員会を設立し、交流大会実施に向けた準備を行いました。

## 2 大会運営体制

県では、知事を本部長とする大会実施本部を設置し、延べ2,630人の実施本部員と延べ1,075人のボランティアの協力を得て、大会の運営を行いました。

## 3 事業概要

主催事業として、「総合開会式」、「総合閉会式」、「交流大会（スポーツ、ふれあいスポーツ、文化）」等の42事業を、また、会期中には併催事業として、『心豊かに歌う全国ふれあい短歌大会』優秀作品展、「シニアと子供のふれあい教室」、の2事業を実施しました。さらに、協賛イベントとして、「おもしろ科学実験教室」、「人と動物の絆」等の22事業が実施されました。

## 4 大会の特色

### 【総合開会式】

- 総合開会式は「式典前アトラクション」で幕開けし、鉄砲隊演武、よさこい演舞、マーチングバンドが会場を盛り上げました。
- 和歌山市立宮前小学校の全校児童が「都道府県応援団」を結成し、選手団1万人の入場行進に声援を送りました。
- 「国旗掲揚」では、和歌山大学教育学部教授の大元和憲さんが国歌を独唱しました。
- 「炬火入場・点火」では、高野山奥之院の祈親灯から採火した火を、和歌山県が誇るオリンピックと東京オリンピックでの活躍が期待される若手アスリートがリレーするとともに、ねんりんピック史上初めて、水素エネルギーを使用して点火しました。
- 彬子女王殿下より、おこたばを賜りました。
- 『「あふれる情熱 はじける笑顔」和歌山宣言』では、和歌山県選手団の2名が選手を代表し、高らかに宣言しました。
- メインアトラクション「紀の国わかやま“夢と人生”の讃歌」では、『いつまでも“夢”を持ち続けてほしい』という願いを込めて、総勢3,300人の出演者が季節の移ろいと人生を重ね合わせた歌物語を披露しました。ゲスト歌手として坂本冬美さん、ストーリーテラーとして天翔りいらさんにも出演いただき、和歌山県の魅力とおもてなしの気持ちが伝わる圧巻のアトラクションが繰り広げられました。



### 【交流大会】

- 県内21市町で、スポーツ交流大会（10種目）、ふれあいスポーツ交流大会（12種目）、文化交流大会（5種目）の計27種目の交流大会を開催しました。
- ふれあいスポーツ交流大会の合気道は和歌山大会で初めて開催されました。

### 【各種イベント】

- ねんりん世代から子どもまで誰もが気軽に楽しめるイベントにより、ねんりん世代の元気な活躍ぶりをアピールし、健康長寿や生きがいの大切さを再認識するとともに、来県者が、和歌山の魅力を満喫できるよう、きいちゃん広場や地域文化伝承館、ファッションショー、美術展などの各種イベントを、和歌山ビッグホールを中心に開催しました。

### 【総合閉会式】

- メインアトラクション「がんばれ!!前畑秀子物語」では、和歌山県出身で日本女子競泳初の五輪金メダリスト、前畑秀子さんの人生を綴るノンフィクションのミュージカルを披露しました。りら創造芸術高等学校の生徒を中心に、前畑秀子役として天翔りいらさん、西中校長役として羽根博司さんにも出演いただき、本格的なミュージカルが展開されました。
- 次期開催地アトラクションでは、地歌舞伎「傾歓迎岐阜年輪（かぶいてもてなすぎふねんりんびつく）」が披露され、会場から大きな拍手が送られました。
- グランドフィナーレでは、出演者全員がステージに登場して、選手団や観客とともに「上を向いて歩こう」を合唱し、会場全体が感動に包まれる中で総合閉会式は終了しました。



## 5 大会の参加実績

### ●選手・監督、役員等参加者数

	選手・監督	役員等	合計
都道府県・政令指定都市からの参加選手・監督、役員等	9,031	615	9,646

### ●実施本部員等の延べ参加者数

	実施本部員	ボランティア	合計
大会の運営	2,630	1,075	3,705

### ●総合開・閉会式の出演・演奏等参加者数

	出演・演奏等参加者数
総合開会式	3,300
総合閉会式	140
合計	3,440

### ●延べ参加者数

	11月9日	11月10日	11月11日	11月12日	合計
紀三井寺公園陸上競技場	179,100	—	—	—	179,100
イベント会場	104,200	127,500	49,300	2,500	283,500
交流大会会場	7,200	77,800	11,700	300	97,000
合計	290,500	205,300	61,000	2,800	559,600